

□□□□-□□

本郷局承認

2144

差出有効期間
昭和62年1月
31日まで

文京区本郷三丁目三八番一三三
マヌ都市建築研究所内

一寺言問・わいわい会事務局

防災まちづくり計画(案)アンケート係

(受取人)

本郷スカイビル四階

(差出人)

住所	墨田区				
氏名	電話				
職業	年齢	性別	男・女		

アンケートにご協力下さい

裏面のアンケートにお答え下さい。寄せられたご意見を
計画立案の参考にさせていただきます。1月31日までにお送り
下さい。

(きりとり線)

※きりとり線で切って、切手をはらずにポストへ

なまず君の要石探し



第五話「住宅まわりのみどり」

まちの人にも楽しんでもらえる緑化事例がこんなにあった。



住宅まわりに緑を飾ると、通りすがりの人も緑を楽しめる



街角に緑を飾ると、街を訪れる人の目印になる。(向島五)

「一寺言問の防災まちづくり計画(案)」

安心とつるおいのまちをめざして

私たちのまち、一寺言問地区(墨田区東向島一・三丁目、堤通一丁目、向島五丁目)は、下町の風情を残すまち、歴史を感じさせるまちです。一方で、地震や火災など災害の危険を抱えるまちでもあります。私たちは、この愛するまちを、より安心して暮らせるまちに、つるおいのあるまちにしていきたいと、地元の創意と熱意を結集して、「ここに」「一寺言問の防災まちづくり計画」安心とつるおいのまちをめざして「をまとめました。私たちは、この計画に基づいて、住民同士協力しながら、また行政の援助を仰ぎながら、防災まちづくりをすすめていきたいと思えます。

防災まちづくりの目標

私たちは、「安心とつるおいのまち」をつくりたい。それは、

- ① 高齢者が住みやすく、若者も住みたくなり、子供たちに誇れるまち
- ② 近所づきあいの良さを受けついで、まとまりのあるまち
- ③ 地元の産業が活発な、賑わいのあるまち
- ④ 人が訪れてきたくなるような、まちそのものが魅力的なまち
- ⑤ そして、地震がいつ来ても安心して住める災害に強いまち

隅田川沿い(堤通一丁目)向島五丁目は、明るくて現代的なイメージの、川と一体になったまちにしていきたい。

東向島三丁目あたりは、閑静で、緑が豊かな、寺町情緒を感じさせるまちにしていきたい。

東向島一丁目あたりは、いわゆる下町の生活が活きづく、活気のあるまちにしていきたい。

向島五丁目あたりは、料亭街がもっていた、しっとりとした雰囲気を与えるまちにしていきたい。

まちの将来像

- (1) 火を出さない、もらわないまち
私たちは、自分の家や近所から火を出さないまちにしたい。そして隣りのまちから火をもらわないまちにしたい。
- (2) 災害に対応できるまち
私たちは、力をあわせて防災活動をおこなえば、火の消せるまちにしたい。防災活動の拠点になる広場があり、防災活動に支障のないみちがあり、防災のための水が豊富なまちにしたい。
- (3) ゆくもりの感じられるまち
私たちは、災害から生命と生活を守るために、助けあうこのことができるまちにしたい。まちに暮らす人たちの暖かさを感じとれるようなつるおいのあるまちにしたい。

ゆるタテ割り行政のへい害は取り除けるはずだ。」「先頃、日本電気精密の工場が大手建設会社に売却されたが、この跡地利用についても地元の見解がまとまっていない。行政はそれに沿った開発指導がおこなえる。例えば、「墨堤の桜再生」がまとまれば、区は、「敷地から少し後退して建物を建てて、桜を植えてもゆっくりと歩ける歩行空間を確保してくれ」といった行政指導をしていくのでは無いだろうか。このところまちの変わり方も激しいから、大筋は早めに合意しておく必要がある」と、行政施策に対する有効性を指摘した。

現実的な諸問題も、加味していくべきだろう

二つした中で、地元が現在深刻な問題として受けとめている、交通渋滞の問題やいわゆる「浮浪者問題」については、「21世紀だんだんといくても、現実問題を抜きには語れない。対策の良し悪しは別にして、そういう現実的な問題も加味していく必要がある」「防災まちづくり計画と、まちづくりの前に「防災」がついているのは、このまちづくりに対して東京都が防災生活圏モデル事業として支援しているからで、我々地元にとっては、例えば「安心とつるおいのまち計画」という名前でも良い。だからそういって問題についての対応策も、何らかの形ではない、てきてもかまわないのではないか」「主となるのは、「防災」であるが、そういった防災に直接関連のないと思われるものは、別冊にして区長に提案してもいいのではないかと。(裏面に続く)

① まちの将来像について

計画(案)にかかれた「まちの将来像」について、どのように思いますか。ご意見をお書き下さい。

Blank box for handwritten responses to question 1.

② 計画の内容について

12項目の「計画の内容」の中で、あなたが特に進めたい、進めてほしい項目を3つ選んで下さい。また「計画の内容」に関するご意見をお寄せ下さい。

Three empty boxes for selecting items from the plan's content.

Large blank box for providing additional comments on the plan's content.

(きりとり線)

※きりとり線で切って、切手をはらずにポストへ

計画の内容

狭い空間でも、土さえめれば
縦は育つ。(東向島三)



塙をつくらなければ、みんな
が庭を見れる。(堤通一)



塙をつくっても、線を多く見
せることができる(東向島三)



1 木造密集地区の安全性を高めていく
東向島一丁目と向島五丁目の一部には、木造老朽家屋が密集し、災害の危険性が高い地区が広がっている。木造老朽家屋の建て替え、道路の整備、オーファンスペース(空地)の拡大をすすめ、まちの安全性を高めていく。

2 延焼遮断帯を形成する
隣接地区から延焼を防ぐため、一寺言問地区の外周を形成する。明治通り、水戸街道、墨中通りの沿道建築物の不燃化をすすめていく。不燃化にあたっては、名所旧跡の景観を損ねないようにしていく。

3 道路を広く利用する

建築基準法を守り、前面道路の中心線から二メートル以上後退して建物や塙などの工作物をつくるようにする。これを推進するために後退した建物の前面道路の側溝の整備や電柱の移設を逐次おこなっていく。また、不法駐車や道路にはみ出した商品陳列をやめ、道路は、道路として広く利用していく。

4 交差点の隅切りをする

消防車のホースが地区全体に届くように、特に消防活動の支障になっている交差点を重点的に隅切りをしていく。

5 防災活動の拠点をつくる

第一寺島小学校と言問小学校を一寺言問地区を防災活動拠点にする。拠点の安全性を高めるために、周辺建築物の不燃化をすすめていく。

6 防災活動拠点到達する道路を安全なものにする

防災活動拠点(一寺小と言問小)に接続する道路は、日常から親しまれ、防災活動に支障のないみちにしていく。特に、二つの防災活動拠点を結ぶ細街路を、地区住民の生活道路(一寺言問のみち)として整備し、沿道一帯の安全性を高めていく。また地蔵坂通りは、自転車交通の少ない、買い物しやすいみちに、墨堤通りに抜ける言問小学校前の道路は、安全な通学路にしていく。

7 防災広場をつくる

防災活動拠点間の道路(一寺言問のみち)沿いに、消防用水を備えた防災広場を二、三ヶ所整備していく。それは単なる広場ではなく、周辺にうるおいを与えるようなデザインが施された広場にしていく。

8 寺社などを応急利用施設として結ぶ

東向島三丁目にある寺社(白鬚神社、道華寺、法泉寺)や、都立施設(向島百花園、墨田川高校)を災害時に応急利用できるようにしていく。またそれぞれを結ぶ道の沿道の緑化や落下物防止を積極的におすすめ、安心して歩ける散歩道にしていく。

9 隅田川緑道を魅力的にする

隅田川沿いは、災害時には避難路になる可能性が高いため、避難に支障のないみち、公園にしていく。そして水面が眺められるところや墨堤通りから行きやすいみちを確保し、もっと市民が親しめるようにしていく。

10 墨堤の桜を再生する

墨堤通りは、沿道建築物の不燃化をすすめて、広域避難広場(白鬚東防災団地)に向かう一番安全な避難路にしていく。そして日常から市民にとってわかりやすく、親しめる道にしていくために、歩道

とい、た発言があり、今後の議論の中で検討していくことになった。また、「例えば、墨堤通りという一本の道路をつくるのに、数十年かかっている。それだけ実際におこなうのは難しい。仮に道路を拡幅することになった場合、ここは、土地にずっととどまっていたという住民が多いから、抵抗があると思う。そういうことを充分に加味してすすめていかねばならない。住民と行政がいっしょになって、できることから少しずつ進めていく姿勢が大切だ。無理して進めると、関係がこじれてしまう。」(嶋崎島二副会長)と、計画の進め方についても、充分に検討する必要性があるとい、た発言もあった。

地元の意見のまとめ方と一言会のすすめ方

今後、具体的な検討作業は、各団体から選出された理事(三名ずつ、二十一名)があたるが、地元の総意としてまとめるために、①各町会では、計画案についてよく議論し、意見をまとめてそれを理事会に出していく。②町内会では、広範な意見を計画に反映させるため、計画案に関する意向調査を実施し、それを理事会に回答していく、とい、た進め方が確認された。

また、「まちの変わり方が急激なため」、年度変わりの四目を目標にまとめていくことになった。

なお、防災まちづくり反版は、発行元を、これまでの「一寺言問の防災まちづくりを考える」のいわい会世から、「一寺言問を防災のまちにする会」にバトンタッチし、企画・編集は、一言会事務局内の反版編集局があたることになった。



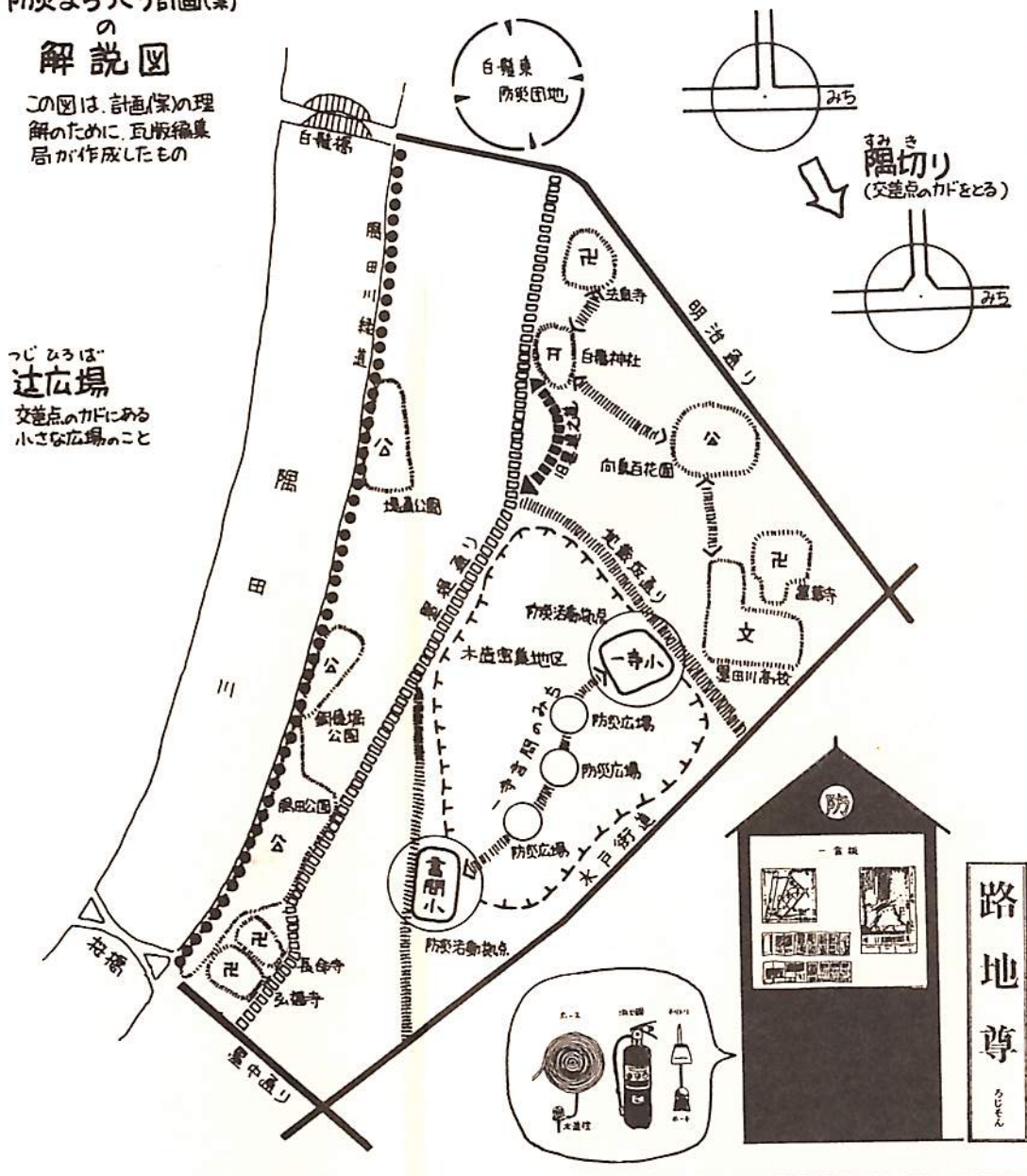
生け垣にすれば、災害時に倒れることなく安全(東向島一)

○一寺言問地区の樹木本数(街路樹を除く)は二八二九本、人口千人当り二三六本、区平均が一三九本だから、区内では緑の豊富な地区になっている。ちなみに町丁別では、東向島三丁目が一三九六本(四六%)と最も多く、次いで向島五丁目八七八本(三三%)、東向島二丁目四七本(一四%)、皇通二丁目二四八本(九%)の順。○昨年十月、一寺言問地区は東京都の緑化モデル地区に選ばれた。更に緑の豊富なまちにするために、緑化に対して様々な援助をしてくれるそうだ。緑は火災の防止にも役立つ。防災まちづくりには欠かせない要素だ。まずは手近な住宅まわりから少しずつ緑を増やしていくのだ。

防災まちづくり計画(案)の解説図

この図は、計画案の理解のために、瓦版編集局が作成したもの

つじひろば だ広場
交差点のカドにある小さな広場のこと

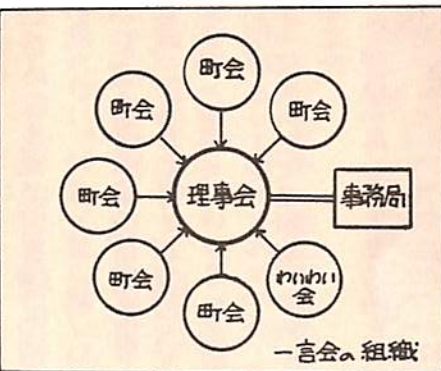


路地尊
防犯カメラ
防犯灯
防犯ブザー
防犯ステッカー

防災まちづくりの進め方

- 11 防災活動拠点会議を開く
地区住民と防災関係団体が集まり、災害における応急活動の態勢づくりなどについて話しあ、ていく。
- 12 路地尊を置く
防災まちづくりのシンボルとして、防災広場や建替に關して協定を結んだ路地などに、防災設備付き掲示板(路地尊)を置いていく。
- (1) 住民同士の人のつながりを大事にしなから
私たち住民の共通の願いを示した計画だから、特定の人が犠牲にならばならない。これまでこのまちで培ってきた人のつながりを大事にしなから進めていく。
- (2) できることから少しずつ、そして具体的な計画を考えながら
計画の実現をおせらない。具体的な実施計画について充分に議論を重ねながら、できることから少しずつ進めていく。
- (3) 住民と行政が協働しなから、そして互いに役割を分担しなから
防災まちづくりは、行政がやるものではない。だからといって、住民だけでできるものでもない。住民と行政が協働しなから、そして互いに役割を分担しなから進めていく。

一言会の組織体制



- ① 防災まちづくり計画をつくり、区長に提案することを当面の目標とする。
- ② 六つの町会とわいの会を構成する。
- ③ 各団体から三名ずつ選出された理事で理事会を構成し、計画について協議・決定していく。
- ④ 役員は、会長一名、副会長六名、
会長 則武勝南(東向島三丁目町会会長)
副会長 増田年茂(向島五丁目町会会長)
嶋崎勇二(向島五丁目町会会長)
村岡薫(東向島一丁目町会会長)
麦屋安志(東向島宮元町会会長)
星野孝吾(皇通二丁目町会会長)
徳永暢男(わいの会代表)
- ⑤ 事務局は、事務局長の須賀健(東向島三丁目町会)他、「わいの会」世話人と、「わいの会」事務局(皇田区開発促進室とマヌ都市建築研究所)
- ⑥ 連絡先は、皇田区開発促進室
坂(六二六)三二五(一)五

わたしがまちづくりスタッフです



東向島三丁目 佐原滋元さん (その七)

一寺言問地区の名所のひとつ、向島百花園の茶亭を営む佐原さん。いつもニコニコして、ひょうひょうとしているように見えるが、なかなかの行動家で、細い体を酷使して、多方面で活躍している。先日の一言会では、まちなかオリエンタリングのまとめ役になり、今度結成された一言会でも、わいの会の理事として参加している。

以前、都市計画の仕事をしてきたころ、住民参加のまちづくりの必要性を文章で書いていたそうだった。「まさか自分のまちで、住民の立場で、住民参加のまちづくりに実践にたずさわると思わなかった。」「やうなはならぬ」と頓念して始めた「そうだが、今ではかなり熱がはいっている。」

【坂】田原雅